

誰にでも秘密がある

2004(平成16)年10月26日鑑賞(試写会・OS劇場)

★★★★



監督=チャン・ヒョンス/出演=イ・ビョンホン/チェ・ジウ/チュ・サンミ/キム・ヒョジン/チョン・ジェヒョン/キム・ヘゴン/タク・ジェフン (東芝エンタテインメント配給/2004年韓国映画/101分)

……『冬ソナ』の女優チェ・ジウと、『オール・イン』『美しき日々』の男優イ・ビョンホンの韓流2大スター夢の共演！ 完璧な男1人に、3人の姉妹がみんな恋に落ちてしまうという非現実的な物語ながら、韓流のロマンティック・ラブコメディには興味津々……。それにしても、齒の浮くようなセリフを並べて、三人姉妹を1人残らずモノにしてしまう(?)男なんて、ホントに実在するの……？

新たな「三人姉妹の物語」

三人姉妹、四人姉妹を主人公にした小説や映画は多い。「三人姉妹」では、ロシアにチャーホフの『三人姉妹』が、中国に『宋家の三姉妹』がある。また「四人姉妹」では、アメリカにオルコットの『若草物語』が、日本に谷崎潤一郎の『細雪』がある。その中で最大のスケールのものは、何ととっても壮大な歴史絵巻の『宋家の三姉妹』。

そんな中、今はやりの「韓流ドラマ」において、これらの大作に比べればちょっと軽い(?)ものの、新たな「三人姉妹の物語」が誕生した。三人姉妹の中でも、とりわけ話題を集める人物は、何ととっても「冬ソナ」ブームを生んだあの女優チェ・ジウだが、映画では意外と(?)平等に三人姉妹を取り扱っている。

キャラその1 三女ミョンは？

「三人姉妹モノ」が成り立つためには、三人姉妹のキャラが非常に重要で、そ

のぶつかり合いがドラマの緊張感を生み出すもの。この映画のストーリー構成上のメインはチェ・ジウではなく、むしろ三女のミヨンに扮するキム・ヒョジン。このミヨンは、「自称・自由恋愛主義」で、ジャズシンガーという別の顔を持つ女子大生。ナイトクラブで歌手のアルバイトをしながら、「いい男」の出現を待ち望み、自らアタックを試みるという積極的な女性。

ミヨンが働く店を訪れた、「画廊オーナー」で「謎の青年実業家」そして、すべてを兼ね備えた完璧なイケ男のスヒョン（イ・ビョンホン）に対して、ミヨンは猛アタックを仕掛け、家族への紹介を経て、意外にスナナリと2人で「結婚宣言」をすることに……。これでは、他の2人は刺身のツマ……？

このミヨンの役を演ずるため、ボーカルの特訓を受けたキム・ヒョジンのボーカリストとしての実力はなかなかのもの。その魅惑的な歌声にとろけそうになること確実……？

キャラその2 次女ソニョンは？

チェ・ジウが演ずるソニョンは、「恋愛経験＝ゼロ」「一日の大半を図書館で過ごす本の虫」という意外なキャラの女性。メガネをかけた本の虫で、無器用なソニョンが、この映画のストーリーでは突如、大変身を遂げていくことに……。

ハンサムでやさしく、お金も地位もあるうえ、ソニョンと共通する詩の知識や教養もある、そしてそればかりか、突然姿を消した父親を想う繊細な神経までもっているスヒョンに対して、もうソニョンはメロメロ。「愛とは、雷を受けたように衝撃的に心を奪われていくもの。そんな恋がしてみたい」と勝手に夢みているソニョンは、ガリ勉家特有の「集中力」(?)によって、以降、男性のセックスについて、本とビデオで猛勉強。そして、その成果(?)を次々とスヒョンに対して披露する肉弾攻勢(?)だ。これを、あの『冬ソナ』のチェ・ジウがやるのだから、何とも面白い……。しかし、こんなキャラを演じるための演技は結構難しいはず。

『冬ソナ』で見せた、あくまで清純でけなげなイメージとは全く異なるこんなコミカルなキャラを、チェ・ジウが一生懸命演じているが……。私には、やはりちょっとムリをしているなという印象も……？

キャラその3 長女ジニョンは？

ストーリー展開上3番目に登場するのが、長女のジニョン（チュ・サンミ）。産婦人科医の夫（キム・ヘゴン）と、7歳のかわいい娘をもつ人妻だが、夫婦仲は倦怠期を迎えている。そのため、ジニョンの「女としての魅力」は次第に失われていくばかりで、多少焦り気味……。

外見上は幸せな家庭生活を送りながらも、そんなちょっとした不満をもつジニョンに対するスヒョンの殺し文句がスゴイ。それは、ドレスを試着しているジニョンに対して、突然ケイタイをかけて、「うなじがきれいですね。その赤いドレスはよくお似合いですよ」というもの。何ともキザな、下手するとセクハラになりそうなセリフだが、韓国で1、2を争うハンサムボーイのイ・ビョンホンがやると、キマってしまうから、ニクい……？

そのうえ、結婚式当日になって、スヒョンとの結婚を逡巡するミヨンに対して、アドバイスをしていたはずのジニョンが、あろうことかスヒョンの魅力に負けて、2人で遂に一線をこえることに……。夫とのセックスレス状態に耐えていたジニョンが見せる、スヒョンとの激しいセックスシーン（？）は、コメディタッチながらも、なかなかのもの……。

スヒョンは結局三人姉妹みんなと……？

……てなわけで、結局スヒョンは、結婚宣言した三女のミヨンとは当然のことのように「婚前交渉（？）」を続けつつ、次女のソニョンとも再三ベッドをともにすることに。そのうえさらにあろうことか、人妻である長女のジニョンとも……。さらに、おまけ（？）として、三人姉妹の下にいる、たった1人の弟デヨン（チョン・ジェヒョン）に対しても、男として「恋の指南」をしているうち、男同士のちょっと妙な雰囲気にも……。いやはや、さてさて、ホントに、こりゃ大変……？

注目すべき（？）便利な言葉

ハンサムで完璧な男のスヒョンだから、言うこと、やることがすべてキマるの

かもしれないが、やはり二股、三股をかけていくについては、「良心の呵責」があるのが当然。現に三女のミヨンは、絶対スヒョンと結婚するのだと決めながらも、貧乏でいつもメソメソしている頼りないかつてのボーイフレンドのサンイル（タク・ジェフン）とヨリを戻し、結婚式当日になっても、ウェディングドレス姿のまま結婚を逡巡している状態。ヴァージンロードを歩いていた足を突然止め、式場を飛び出してしまったミヨンは、スヒョンに対して、「実は……」とその秘密を打ち明けようとしたが……。

そんなミヨンに対するスヒョンのセリフが、またニクい……。それこそ、まさにこの映画のタイトルそのものだ。「誰にでも秘密がある」という言葉は、まことに便利で重宝なもの……。俺もこれを自分の言葉として引き出しの中にしまいこみ、必要に応じて、うまく使いこなさなければ……？

ホンマの話、それとも夢の話……？

三女の結婚相手として決まった理想的な男スヒョンに対して、次女も興味を示して肉弾攻勢をかけ、さらに夫と子供までいる長女までが、その魅力に惹かれて一線をこえていく……。これに対してスヒョンは、三女と結婚式に臨む直前まで、三股をかけて（？）、三人姉妹に対して誠心誠意の愛を込めて尽くしていく……。そんな話って、ホントにあり……。もしそんな話がホントにあれば、三人姉妹はドロドロの「嫉妬合戦」となり、下手すると殺傷沙汰という生々しい事件にまで発展しかねないはず……。

そんな非現実的な、1人の男と三人姉妹との恋愛模様を、マンガ的に、しかしあくまでロマンティックに、各俳優の魅力をたっぷりひき出しながら、スクリーン上に表現したのがこの映画。ありえないラブストーリーを、いかに楽しく魅力的に描くのか……？

『誰にでも秘密がある』というタイトルは、実にピッタリ！ 男女の恋やセックスに対して、あまりアツくならず、コメディタッチで楽しみたいものだ。

2004(平成16)年10月27日記